

議題 北九州市立美術館運営評価について

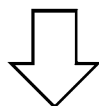
評価項目1: 作品 ～資料収集・環境管理・保存～

外部評価

	評価	理由
① 実績に対する評価	作品収集、修復等については評価できるが、データベース構築の基盤づくりが早急に望まれる。	<p>○収集方針に沿った、なおかつ展覧会と連動した作品収集は評価できる。</p> <p>○収蔵庫内の点検・清掃を週1回のペースで継続・実践している点は素晴らしい。</p> <p>○データベース構築には、作業の進行と継続のために基盤づくりが早急に望まれる。</p>

	妥当性	理由
② 自己評価の妥当性	【総合評定B】 妥当である。	○4つの評価項目について、各々自己評価は妥当である。

③ 運営改善の提言	<p>○週1回の収蔵庫内の清掃ということだが、どのような清掃を行っているかを記していただきたい。やり方によっては、清掃がいいとは必ずしもいえない。</p> <p>○データベース構築については、ネット社会のなかで対外的にも所蔵作品・資料の広い活用が求められている。外部環境として、構築を支援する体制ができていますので、外部資金獲得を含めて計画を見直す必要がある。 また、財政当局に一般公開の重要性、必要性を説明し、計画の見直しをする場合、どのような弊害や課題が生じるかを明らかにしておく必要がある。</p>
-----------	--



課題解決のために取り組むこと
・作品データベース、図書データベースのいずれも努力を続けているが、作業量に対してのマンパワーが不足しているので、予算要求を続けるとともにスケジュールや規模など計画自体の見直しも検討する。

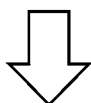
評価項目2: 公開～調査研究・展覧会～

外部評価

	評価	理由
① 実績に対する評価	評価できる。	<p>○コロナの影響をどう評価するかは難しいが、こうした状況だからこそ、現地調査は無理であるとしても、美術愛好者に対するオンラインの活用にもっと積極的な工夫があってもよかったかとも思われる。</p> <p>○自主企画展の中止により急遽コレクション展への変更があったにもかかわらず、コレクションの豊富さと学芸の企画力をアピールできた点を評価します。</p> <p>○コロナ禍の中でも研究発表や口頭発表などを積極的に行ったことは評価できる。</p> <p>○新たな試みであったYouTubeでの口頭発表はあらゆる事態下での美術館活動の新しい道筋を作ることができた点で評価できる。</p> <p>○開催期間の短縮などある中で12月以降は1万人を越す企画展は評価できる。</p> <p>○「アートの中のSF」の中止は残念だった。「アート」を取り巻く考え方が多様化しているので、このような意欲的な取り組みに期待する。</p>

	妥当性	理由
② 自己評価の妥当性	【総合評定A】 妥当である。	<p>○概ね妥当と判断できるが、コロナ禍の状況だからこそその工夫は、今後の美術館活動のなかで利する要素もあるだろうから、もっと積極的な取り組みがあってもよかったかと考えられる。</p> <p>○コロナ禍での展覧会中止は、やむをえないことであり、評価すること自体が困難ともいえる。</p>

③ 運営改善の提言	<p>○オンライン等の利用は、これからの美術館の世界全般について新たな取り組みがさまざまに出現すると思われるから、貴館でも独自の工夫と、自館に合った外部の工夫の取り組みとを考えることが望ましいであろう。</p> <p>○貴館からの発案で展覧会を組み巡回させる企画の実現を絶えず画策していただきたい。調査研究の実効性のうえでも欠かせない事業と思われる。</p> <p>○連携企画の場合、複数の展覧会を抱える学芸に業務が集中することがあり、スケジュール管理の必要性を感じる。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館や展覧会中止になった場合、代替の展覧会(コレクション展、若手アーティストの企画展など)に関して準備ができると特別展の空白が避けられるのではないだろうか。</p> <p>○所蔵品の調査研究を定期的および長期的に行えるような体制ができると良い。例えば、毎月必ず調査する日を定めたり、調査する作家をそれぞれ担当制で決めたり等。</p> <p>○アフターコロナを見据えた企画展の展開に期待している。</p>
-----------	---



課題解決のために取り組むこと

・引き続き調査研究を積極的に行い、テーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催すると共に、来館者の満足度を企画立案につなげることを検討していきたい。

評価項目3:交流～教育普及・地域交流～

外部評価

	評価	理由
① 実績 に対する 評価	評価できる。	<p>○ミュージアム・ツアーについて、コロナ禍の中、1グループの人数を4名にしたことは評価できる。今後もできる限り少人数で対応できたらと思う。参加人数を評価指標とする面もあるが、人数を少なくして得られる成果もある。</p> <p>○予算の都合でガイドスタッフを増員できないと思うが、学生さんを活用することはとても良い案だと思う。</p> <p>○事前説明映像の活用など、コロナ禍での工夫が功を奏している。事前説明映像などは通常も活用してはどうか。</p> <p>○ワークショップでもオンラインでの実施と新たな手法を取り入れて成果が上がっていることも素晴らしいと思う。</p> <p>○オンラインでの催しの人数が前年度より少ないことについて検討するのの一つの方向性だと考えられる。</p> <p>○通常でない環境下において実施できた事は評価に値すると思う。</p>

	妥当性	理由
② 自己 評価の 妥当性	【総合評定 B】 妥当である。	<p>いずれの事業もコロナ禍で事業が計画通りにいかなかったことで評価も難しいかと思う。 特にボランティア事業は、人が集まらない、事業の実施も難しい中、ボランティアが集まる機会を作ることすら難しいので、Bの評価も仕方ないかと思われる。</p>

③ 運営 改善の 提言	<p>○ミュージアムツアー実施にかかり学校と日程等を調整する時、学校側の事情を考慮した対応が必要である。臨機応変に丁寧な対応をして欲しい。</p> <p>○ガイドスタッフ間の経験差が指摘されているが、ガイド研修の方法として、ガイドスタッフ間の相互学習の場を設けてはどうか。</p> <p>○コロナ禍において事業の形も変わるなか、ボランティアの活動内容も変化していくと思う。県外(国外)の方の広報ボランティアとしての活動なども考えられる。</p> <p>○今年は他館との連携事業が中止となっているが、こういう事業は美術館に興味のない人たちにもその興味の幅を広げる機会となると思うので、次なる企画を楽しみにしている。</p> <p>○オンラインツールを用いた催しやボランティアスタッフとのつながり維持について、可能な限り検討してもらいたい。</p> <p>○今後もコロナ禍が続く中、前向きな対策を期待する。</p>
----------------------	---



課題解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドの経験年数に合わせた研修プログラムを考案していきたい。</li> <li>・さまざまな年齢やジャンルを意識した多彩な企画を今後も用意する。</li> <li>・コロナ禍が長引く中、オンラインツールなどを活用したプログラムやボランティア同士の交流維持なども検討する。</li> </ul>

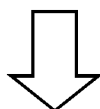
評価項目4: 広報～利用促進のための情報発信～

外部評価

	評価	理由
① 実績に対する評価	評価できる。	<p>○ツイッターやインスタグラムを使った展開は評価できる。</p> <p>○情報発信のツールとしてはSNSに言及があるのみなので、他のWEBメディアや新聞、TV系メディアを含めた情報発信についても検討が必要ではないか。</p> <p>○新型コロナウイルスの影響でアンケートは実施できないもののアンケート方法の検討は出来たのではないか。</p> <p>○コロナ渦の中で、アンケート調査は困難であるし、講座の利用も困難と予測されるため、活動制限はやむを得ないと思う。</p> <p>○コロナ渦のため、実際の利用はなかったが生涯学習事業として、市民センターにPRすることは評価できる。今後も実施することに対しても評価できる。</p> <p>○例年にない状況下で、試みながらの活動については、やむを得ないこともあると思う。</p> <p>○令和2年度はコロナ感染拡大によって計画、実施の影響が多大であり実績に対する意見、評価は難しく多くの取り組みが出来ず不可能となり本当に残念に思う。</p>

	妥当性	理由
② 自己評価の妥当性	【総合評定 B】 未実施の項目を認識した上で、総合的には概ね良いと考える。	<p>○概ね妥当な評価であると思う。</p> <p>○アンケート方法の部分は、やや悪いか悪いが妥当と思う。それ以外の②、③、連携の部分の①、②は概ね良いが妥当と思う。総合評価 概ね良いは妥当と思う。</p>

③ 運営改善の提言	<p>○SNSの利用は企画展ごとの公式ツイッターだけでなく美術館、あるいは北九州市などと連携することが大事と思う。相互フォローにより広報が拡散していく。</p> <p>○北九州市立美術館は建築物自体が高く評価される作品でもあるので、ロケーションを含めた利用促進も検討できるのではないか。(チームラボ、野外インスタレーション等)</p> <p>○団体客誘致活動について、インバウンドはしばらく戻らないし、感染予防対策(人数制限等)はずっと継続するという前提で、ワクチンパスポートなども考慮しつつ、旅行会社への団体客誘致を検討する必要があると思う。</p> <p>○今回のような状況がまたいつ到来するか分からない。その場合にどのような広報活動を行っていくかの検討をしていただきたい。</p> <p>○またアナログ的なクラシカルな企画力も発信力も大切であると思う。図書館、美術館でのおひとり様のご来館は大歓迎であると考えている。</p>
-----------	---



<p>課題解決のために取り組むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体客誘致、SNSの活用等の広報活動については、新型コロナウイルスの影響を踏まえた対策を検討する。</li> <li>・常時連携する連携先の拡充を検討する。また、企画段階で展覧会スケジュール変更を考慮した計画が必要である。</li> </ul>
--

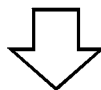
評価項目5: 環境～快適なアメニティ空間の演出～

外部評価

	評価	理由
① 実績 に対する 評価	評価できる。	<p>○キャッシュレス決済、カード決済等のインフラを整備することは非常に重要である。</p> <p>○改善すべきところを明確にしている点が評価できる。 但し、現場会議でどのような意見が出て、それをどのように生かしたかを知りたい。</p> <p>○施設の老朽化に対応しながら、安全性の確保と来場者へのよりよい対応と優先順位の総合的な判断が求められるかと思う。また、決済方法の拡大の検討などもこれからの施設運営に対して必要な取り組みかと思う。</p> <p>○美術館内外の安全対策を最優先に安全確保と適正管理の再確認の対応を今年度に継続、実施をしていただきたいと思います。</p>

	妥当性	理由
② 自己 評価の 妥当性	【総合評定 B】 妥当である。	<p>○妥当と思われる。</p> <p>○公立美術館でのバーコード決済(ペイペイ)などの支払い対応、実施については個人的には如何なものかと思っている。</p>

③ 運営 改善 の 提 言	<p>○キャッシュレス決済について、初期投資、手数料など費用が発生するが、避けて通れない。継続検討を。</p> <p>○整備計画について、設備のリストを作成し、点検、整備計画の優先順位を設定してはどうか。</p> <p>○受付がチケットの確認のみとなっている旨の指摘を複数人より受けた。 来館者の対応について様々な案内、よりきめ細かい対応を検討していただきたい。</p> <p>○展覧会だけでなく、周辺の散策路、美術館からの風景など、おもしろいものもたくさんある。市民にとってもっと親しみのある美術館になってもらえたらと思う。</p> <p>○北九州市立美術館の立地、空間を再発見してポジティブな思考力で北九州市の底力を発揮してほしいと願っている。 また、堂々たる素晴らしいエントランスホールの空間利用・活用も願っている。 創造力を芯としたアートコラボなど・・・多種多様演出力も大切だと考えている。</p>
------------------------------	---



課題解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ決済については、実証実験の結果を踏まえ本格導入する。カード決済については、導入に向けて検討を行う。</li> <li>・受付については、現在実施している研修のなかで、改めて指導する。</li> <li>・アネックス棟の改修工事については、優先順位を含め複数年にわたる整備計画を立て予算要求を行う。</li> <li>・ソーシャルディスタンスの確保、館内換気等の新型コロナ対策を十分に考慮した管理が求められており、対策を講じたうえで快適で安全な美術館空間の確保に努める。</li> </ul>